

創設どきのあれこれ

中学23期 立上 武三 (物故)

◇…サッカー部の創設当時のことを思い出すと、まったく冷や汗ものです。大正4、5年ごろ、陸上競技部や野球部の選手が、(中略)冬のトレーニングのつもりでボールを蹴り合いしていたのに過ぎませんでした。

◆近藤繁先生の赴任

◇…ところが大正5年に広島高師出の化学の近藤繁先生が赴任されたのを機会に、サッカー部が新設されたのです。先生は高師時代に選手をやったとの話でしたが、今から考えると学校代表ではなく学年代表選手ぐらいじゃなかったかと思えます。

というのは、セオリーは一応お手のものでしたが、蹴り方や走り方はサッパリでした。しかし我々がまだ耳にしたことのない術語や作戦をいろいろと教えられ、ようやく試合が運べる程度となりました。今は先生も亡くなりましたけれど、サッカー部にとっては功績者の第一人者と言ってもよいでしょう。

◆初の全国大会出場のこと

◇…当時、府下では明星商業、他県では御影師範、神戸一中等が第一級チームであり、豊中ではすでに中等学校全国大会が開催されていました。ちょうど大正6年晩夏、部員会で全国大会に出場してみよう、というとてもつもない野望? が出て、それぞれ準備にかかることになりました。

私は当時1年生で徒歩部の選手でしたが、彼奴は足も速いし体も大きいからものになりそうだとわれ、無理やり部員に引き込まれました。前警視總監の鈴木栄二氏が当時の御大将でしたが、実戦は現富士車輛監査役の早川富之助氏でした。

◇…が何と言っても前述の如き寄り合い世帯ですので、選手詮衡に難航を続け、1月12日大会開催の1週間ほど前にチームが出来た始末です。

唯一の戦法は“体当たり”なんですから、そのメンバーは柔道部の大将黒田初段を筆頭に、松本、大木、吉田等の猛者に、野球部から早川捕手、丹羽一塁手、その他徒歩部という編成です。今のように試合当日早くから出かけるということも許可されず、昼食(土曜日)を食ってから出かけた始末です。

◇…出陣? に際して早川主将曰く「ボールはあとまわし、体当たりやぜ。うまそうな奴は足を蹴って動けんようにせえ」いやは大変な戦法です。敵は当時の強豪神戸一中で4時開始。案の如く蹴るは…ボールじゃないんです、敵のすねです…体当たりは各所で、その勇敢さは今の部の方々には想像していただけないでしょう。おかげで全員クタクタという次第で、前半0-4、後半0-3、計0-7で大敗しました。

この輝かしい戦闘を我がサッカー部史の第1ページに掲げられし先輩は、

GK	FB		HB			FW				
江口	松本	大木	重田	早川	天野	萬谷	黒田	丹羽	花畑	吉田

◆ようやくサッカーらしく

◇…この試合で一大変化を来しました。それは“体当たりではダメ”と、わかりきった戦法ならざる戦法を変えることでした。ヘディング、FWパス、ロングシュート、ノーバウンドキックと、ようやくサッカーチームとしての軌道に乗ったのでした。而して私たちの編成チームはこの年の秋、前年度の豊中大会に優勝した御影師範と先輩で作られた御影クラブと対戦し0-1で、また豊中大会では御影師範に0-2で惜敗しました。

かくの如くようやく部としての存在が認められ、今まで運動場の片隅で小さくなって練習していた部も、野球部と1日交替で大っぴらで練習できる状態になった次第です。

◆当時の選手？ のその後

◇…今から思い出すといやはやなっちゃいないんですが、最後にこの時代の迷選手が母校を離れられてからの球歴をご紹介して、この稿を終わります。

◇…部の生みの親とも言うべき鈴木栄二氏は大阪警視總監を最後として官界を去られましたが、在任中にはアメリカンサッカーを採用され今では警察官チームは日本のナンバーワンとなっています。初代キャプテンでさきほど申し述べました如き迷戦法？ を編み出された早川さんは関西学院に入学されてGKとして初期の学院の黄金時代を作られ、現在でも三国丘チーム出場の大会には必ず応援に来られています。デッカイ“しり”で敵を悩ませた河野大人は、京大ラグビーチームの闘将として活躍され、私も明大チームの一員としていささかなりともその名を知られることが出来ました。江ちゃんこと江口英二君と山之上庄太郎君は渡洋爆撃隊長としてその名を知られ、湯川政治君は東芝の硝子工場長で斯界の権威者であり、江口重郎、貴多野美三郎両先輩はお医者さんとして活躍されていますし、電車で酔うため試合に行く毎に窓を開けていた重田為司君も、今では大阪学芸大学の体育部長におさまっています。

すでに40年の昔、一同白いものや、禿げ上がりもしましたが“三国丘サッカーチーム優勝戦へ”との新聞の見出しを見るごとに、創設時代のことを思い出して苦笑しています。

(編集注：筆者はすでに故人であり、この稿は昭和30年代に記述されたものです)

(注) この稿は昭和52年三丘体育会編の「三丘スポーツ史Ⅱ」から、関係者のご好意により転載させていただきました。